

# 勝林寺々報

### 凡聖逆誘齊廻入

水のうしおとなるがごと  
如衆水入海一味

と  
凡夫とひじり一味なり

まず、ことばの意味。  
凡聖（凡夫も聖人といわれるような人も）  
逆誘（逆とは五逆罪を犯すような人。五逆罪とは  
父を殺す、母を殺す、仏道修行者を殺す、人の  
の和合を破る、身より血をいだす。誘とは誘法  
のことで仏法をそしめること）  
廻入（まわし入れられること。うまれかわらされ  
ること）  
衆水（どのような川のの水でも）

「凡聖逆誘ひとしく廻入すれば 衆水、海に入り  
て一味なるがごとし」  
凡夫であるうと聖人のような人であろうと、あ  
るいは五逆罪を犯しかねない人でも、また仏法を  
そしめるような人も、お念仏によびまされ、如来  
さまのいのちのなかに生れかわらせていただいた  
なら、ちやうど、いろいろな川から流れ込むいろ  
いろな水も、海に入れば同じ一つの味になるよう  
に、平等一味、四海同朋、それぞれが、すばらし  
い白道を歩む人として荘嚴されるのだ。

おれは正しい、私は美しく、われ尊しという  
ために、あいつ時悪いやつだ、きたない人だ、い  
やしい者だとおとしめています。  
「人の短を言うことなかれ、おのれの長を論ず  
ることなかれ」ということばを座右の銘にしてき  
びしく生きようとした俳聖芭蕉でしたが  
ものいえば、くちびるさむし 秋の風  
と、人をそしり、人をおとしめ、人をふみつけに  
しないで自分より立てない「人間」のあさま  
しさをいだいて秋の風に悲泣せずにはおれなかつ  
たのでした。  
凡だ聖だ逆だ誘だと、互にさげすみ合い争い合  
いそねみ合つていても、しよせん、そんな生きか  
たしか出来ぬ凡夫ではな すべてみんか  
いのか  
如来さまの光に照らし出されてみて、私たちは  
はじめて、だれもだれも、人間あさまし私の姿が  
みえてくる。

あの聖徳太子は、「世間虚仮 唯仏是真」とい  
うことばをいつもつぶやかれていたとか。そして  
十七条憲法のなかに「共にこれ凡夫のみ」と書か  
れているのです。  
親鸞さまは、「一念多念証文」というもののなか  
に  
凡夫というは、無明煩惱われらが身にみちみち  
て、欲も多く、怒り腹立ちそねみねたむ心多く  
ひまなくして、臨終の一念にいたるまで、とど  
まらず消えず絶えず  
と悲しんでおられます。

如来さまのおよび声お念仏のなかで、みんなみ  
んな、あさましく悲しいのちを生きているのだ  
と気づかされてもらうと同時に、その私をこそ、  
すくわずにはおかれぬと、よび通していただく  
如来さまに出合おわさしていただくのです。

してみると私たち、二重の意味でみんな兄弟姉  
妹なのです。  
そのことが、お念仏が聞こえてくるなかで、気  
づかせていたよかったです。

一つは、お互いそねみ合いおとしめ合おねば生  
きれないような、そんなあさましい煩惱具足の凡  
夫なのだ。みんな悲しい凡夫兄弟なのだ。煩惱姉  
妹なのだということ。  
一つは、その悲しい兄弟姉妹が、一つ親如来さ  
まから、「普共諸衆生」（みんなそろつて来い）  
「諸有衆生」（だれも来い）とよばれ、そのおよ  
び声のなかで、やがてだれも同じお浄土へ迎えら  
れるうれいしい姉妹、歓喜の兄弟なのだということ

慈覺大師というお方が「浄土論註」という書物の  
なかで次のように言っておられます。  
そのお浄土は、阿弥陀如来さまの、浄らかなお  
さとりの華から、つくり出されたものでないも  
のはいつもない。  
同じ一つのお念仏によび来て住生するのであつ  
て、この白道のほか別の道があるわけはないの  
だから、この世にあつても、お浄土へ参つても  
しよせんすべて、みな兄弟姉妹なのである。

私たちがよくよむ親鸞さまのうた  
解脱の光輪さわもなし  
光触かむるものはみな  
有無を離るとのべたもう  
平等覚に帰命せよ。  
また  
尽十方無身光の  
大悲大願の海水に  
煩惱の衆流帰しぬれば  
智慧のうしおに一味なり



### 念仏奉仕団募要項

昭和五十八年で第十八回目を迎えます出石組仏  
蓮盟主催の念仏奉仕団の実施要項が出来ました  
一人でも多く、さそい合つてご参加ください。  
なお、例年、納骨式も併せて行ないますので、昨  
年の式以降に亡くなった方のご遺族は、遺骨のお  
ともをして必ずお参りください。

日時 六月八日（水）・九日（木）  
費用 一万二千元  
概要 八日  
前五時出石全但營業所集合→五時十分  
出発→九時本山到着・奉仕・拜觀  
宿泊（本願寺門徒會館）  
九日  
午前中奉仕・昼食→西大谷納骨式→東  
山の靈山觀音拜觀→後八時ごろ出石着  
申込 予納金二千元を添えて四月末日までに  
勝林寺へ。

### 春の研修旅行計画きまる

仏壯仙師の会員から待たれていた春の研修旅  
行の計画が去る合同役員会で決定しました。  
今年は大坂の津村別院にお参りし、開城四百  
年の大坂城をおとすれます。  
村うちさそい合、うちこそつて参加してくだ  
さい。

日 六月二十五日（土）二十六日（日）  
参加費 一人二万一千円  
旅程 二十五日（前七時半出石発→（バス）→  
大坂津村別院・昼食→大坂城→後五時  
新和歌の浦双子島荘）  
二十六日（前九時旅館発→紀三井寺・  
昼食→和歌山城→後八時出石着）  
詳細は後日お知らせします。

この身、  
今生にむかつて  
度せずんば  
さらに  
いずれの生にむかつてか  
この身を度せん。

色はおえど ちりぬるを わが世た  
れぞ常ならん 有為の奥山今日越えて  
浅き夢見じ 酔いもせず

春らんまんと咲きはこつている桜の花  
も、春のあらしにあえぼたちまち散つ  
てちりあくたになる。人も同じ。だれ  
が常住でありえようか。この煩惱しげ  
き世を、明日ではなく今日すぐに越え  
出なければ、浅はかな目先の夢や歡樂  
に、酔いしれていないで

この私の身、  
せつかくお念仏が聞こえてくださること  
人間世界に生れ出たからには  
ここで今  
お念仏して無量壽に生きかえらねば、  
いつたいて  
これから先のいつの世に、  
この無常な生死を  
超え出るときがあるうか



### 葬儀

四月二十二日  
坪口 横山 鉄雄 様  
四月二十八日  
保谷 岸下 そよ 様

人は死ななければならぬ。だから生きねばならぬ。



四月二十八日。おひる前でした。中年のご夫婦が、勝林寺の本堂におまいりなさいました。...

四か月前に私はガンの宣告を受けました。死を、目前にして、私は、はじめて一日を生きる重大さを思います。...

上小田の「連研」

上小田は、養父那八郎にありませう。勝林寺のご門徒は二十三戸。その他にも浄土真宗のご門徒の多い村です。...

春らんまん研修会

四月二十四日(日)。勝林寺仏社・仏壇合同の「春季研修会」を行いました。三時から正信偈行詣の勤行を亀井仏社会長の調声でおつとめした。...

第四期「連研」始まる

出石組は、全国でも最も早く「連研」にとり組んだ組です。数えて八年目、第四期の「連研」が四月二十九日開講されました。...

チューダパンダカ

おしやかさまのお弟子に、チューダパンダカという人がいました。おしやさんのマハーパンダカは、すばらしくかしこいのに、弟のチューダパンダカは、とくべつにもおほえのわらい、のろまでした。...

五月のこよみ

- 一日 湯口勇雄氏宅法事・平田専福寺永代経
二日 平田専福寺永代経
五日 竜谷大学仏教学会来寺
六日 上小田「連研」兼井彰子氏宅祥月
十日 東海教区(名古屋)同推研修へ出講
十五日 成田捷明氏宅法事
十八日 横山梅乃氏宅忌明
二十一日 本山降誕会
二十二日 宮崎教区連研講師研修会へ出講
二十六日 近きブロック若手布教師研修会へ出講
二十八日 出石組内会
二十九日 衣川喜一氏宅法事
三十日 「みのりを聞く会」
六月
一日 出石組連合仏壇評議員会・役員会
二・三日 滋賀教区門徒総代研修会へ出講

降誕会

五月二十一日は、「降誕会(ゴウタンエ)」です。浄土真宗をお開きくださった親鸞さまがお生まれになった、めでたい日です。...

